

# 宮城の伝統的工芸品

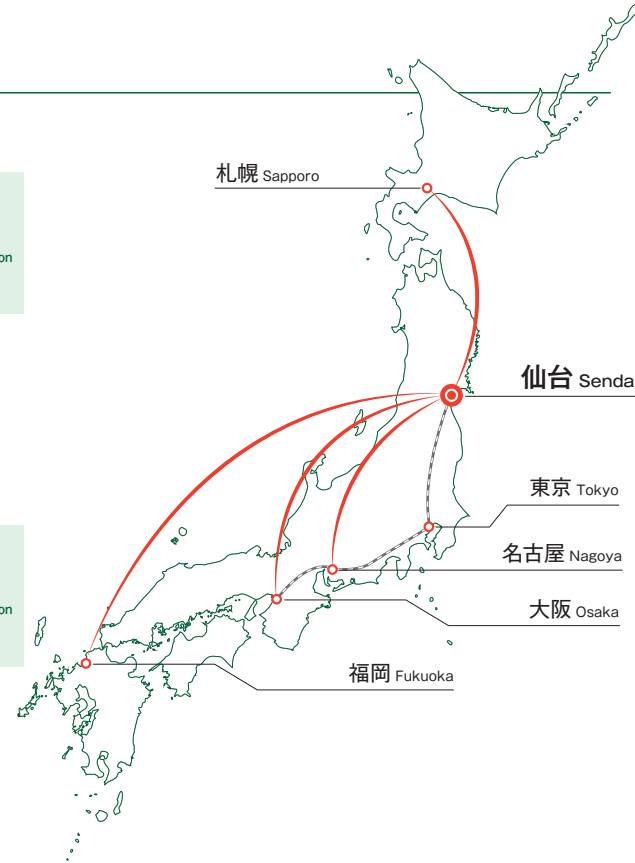
MIYAGI TRADITIONAL CRAFTS

## 宮城県へのアクセス Access to Miyagi Prefecture

### ■新幹線 Bullet Train



### ■主な航空路線 Main Flight Routes

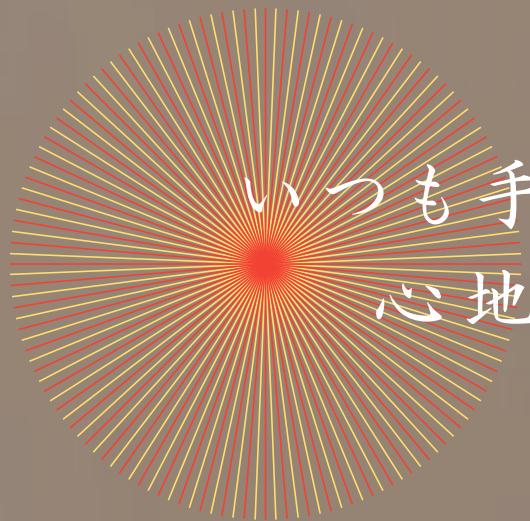


## 関係機関問い合わせ先一覧 List of Prefectural Trade Offices for Further Inquiries

関係機関名 / Office	住所等 / Address
宮城県経済工商観光部 新産業振興課 New Industry Development Division, Commerce, Industry and Tourism Department, Miyagi Prefectural Government	〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1 3-8-1 Honcho, Aoba-ku, Sendai, Miyagi 980-8570 Tel.022-211-2722 Fax.022-211-2729 URL <a href="https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/shinsan/">https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/shinsan/</a>
(公社)宮城県物産振興協会 Miyagi Prefecture Products Promotion Association	〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉一丁目14-2 宮城県商工振興センター3階 Promotion Center of Commerce and Industry of Miyagi Prefecture 3F 1-14-2 Kamisugi, Aoba-ku, Sendai, Miyagi 980-0011 Tel.022-263-5050 Fax.022-263-5369 URL <a href="https://www.miyagibussan.or.jp/">https://www.miyagibussan.or.jp/</a>
宮城ふるさとプラザ(コ・コ・みやぎ) Miyagi Furusato Plaza (COCO MIYAGI)	〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-2-2 東池ビル1階・2階 Toike-Bldg.1-2F,1-2-2 Higashi Ikebukuro, Toshimaku, Tokyo 170-0013 Tel.03-5956-3511 Fax.03-5956-3513
宮城県東京事務所観光物産サービスセンター (公社)宮城県物産振興協会 東京出張所 Sightseeing and Products Service Center, of Miyagi Prefectural Government Tokyo Office Miyagi Prefecture Products Promotion Association (Tokyo Office)	〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-2-2 東池ビル2階 Toike-Bldg.2F,1-2-2 Higashi Ikebukuro, Toshimaku, Tokyo 170-0013 Tel.03-5956-3511 Fax.03-5956-3513
宮城県大阪事務所 (公社)宮城県物産振興協会 大阪出張所 Miyagi Prefectural Government Osaka Office Miyagi Prefecture Products Promotion Association (Osaka Office)	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田一丁目3-1-900 大阪駅前第一ビル9階 Daiichi-Bldg.9F,3-1-900 Umeda 1-chome, Kita-ku, Osaka, Osaka 530-0001 Tel.06-6341-7905 Fax.06-6341-7906
(独)日本貿易振興機構(ジェトロ)仙台貿易情報センター Japan External Trade Organization(JETRO) Sendai Office	〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービルディング18階 Sendai Daiichi Seimei Tower Building 18th floor,4-6-1 Ichibancho, Aoba-ku, Sendai, Miyagi 980-0811 Tel.022-223-7484 Fax.022-262-6230







# いつも手に取りたくなる 心地よい宮城の手触り

宮城の風土に生まれ、受け継がれてきた伝統的工芸品は、  
日常生活のために生まれたもの。

大事にしまいこまず、手をかけて使い続けることで、

ある日は心が静まったり、別の日は笑ったり——。

いつの間にか家族のような関係になっていきます。

その背景には、長く丈夫に愛されるように作り続けてきた職人と、  
風合いや質感の変化を楽しみ愛用してきた人たちの存在があります。

心地よさの本質は、触れること。

日々に喜びを見出せる、時間をかけて育てていけるものを心の栄養に。

## 目次

◆メッセージ	1
◆宮城伝統こけし	3
◆鳴子漆器	5
◆雄勝硯	7
◆仙台箆笥	9
◆仙台張子	11
◆堤焼	12
◆切込焼	13
◆堤人形	14
◆玉虫塗	15
◆仙台堆朱	16
◆埋木細工	17
◆仙台平	18
◆若柳地織	19
◆白石和紙	20
◆松笠風鈴	21
◆中新田打刃物	22
◆岩出山しの竹細工	23
◆仙台釣竿	24
◆仙台御筆	25
◆宮城県の伝統的工芸品マップ	26
◆体験・見学できる伝統工芸品	27
◆問い合わせ先一覧	29





# 宮城伝統こけし

みやぎでんとうこけし

1981年(昭和56年)6月国指定



素朴でかわいい温泉土産



【原材料】…ミズキ・イタヤカエデ・ウリハダカエデ・エンジュなど

【生産地】…仙台市・白石市・蔵王町・大崎市他

江戸末期、東北地方の温泉地で作られ始めたと言われる、こけし。温泉地のある山間部は木材が豊富で、木地師によって生活に必要な木製の椀、盆、鉢などが作られました。その副業として木地人形が作られ、湯治客の土産物にされたといわれています。こけしの魅力は、最も簡略化された造形美と可憐な姿にあるともいわれます。当初は子どもの玩具として、近年は飾って楽しむ大人が増えています。

Historians believe that kokeshi dolls originated in the hot spring towns of the Tohoku region in the late Edo period (1603-1868), when wood was abundant in the mountainous areas where they were located and used by craftsmen to make bowls, trays, pots and other staples of daily life. As side work, they began crafting kokeshi dolls and selling them as souvenirs to visitors. Though used initially as children's toys, an increasing number of adults have come to enjoy the dolls as decorations in recent years, many saying that their charm lies in their simplified, exquisite form and their dainty appearance.

## 産地ごとに異なる表情や形状

宮城の伝統こけしには、鳴子系、遠刈田系、弥治郎系、作並系、肘折系の5つの代表的な作風があり、国の伝統的工芸品に指定されています。

それぞれ産地には特徴があり、頭の付け方、顔や髪を描き方、胴の模様などが異なります。「鳴子系」は、安定感のある胴体に菊の模様。横挽きろくろを回しながら摩擦を利用して胴に頭をはめ込むため、首を回すとキュッキュッと音がします。「遠刈田系」は、頭が大きく細い直胴。三日月状の目と、頭部に手絡と呼ばれる放射状の模様が描かれます。「弥治郎系」は、ベレー帽をかぶったようなろくろ線と、くびれた胴にスカートをはかせたような形状。「作並系」は、カニ菊と呼ばれるカニの形のような菊花模様が特徴。子どもが握りやすい細胴で、くびれがあるものもあります。「肘折系」は、鳴子系の形に遠刈田系の描彩を取り入れた独特のもの。太い直胴には、立ち菊や帯状のろくろ線。頭部にはりボン状の手絡、もしくはオカッパが特徴です。

ろくろで木を挽いて丸みを帯びた形を作り、顔や模様を描いて、ろうで磨いてこけしを仕上げる木地師を、現在は「こけし工人」と呼ぶことが多くなっています。

いずれの工人にとっても、最も緊張する

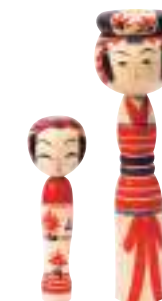


のが顔を描くときです。「息を止めて描く」「息をすっと吐いて力を抜いて描く」「体調が良いときに描く」、方法はそれぞれ。「めんこくなるまで大変なんです」。理想の表情や描彩を追求しながら「こけしを見て『今日もよかった』と思われように」「こけしを好きになって、その土地も好きになってもらえるように」との思いが表れるのでしょう。どの角度から見ても、ほほ笑みかけられているようです。

伝統こけしに加え、自由な

発想で製作するこけしもあります。帽子こけし、温泉こけしなども、その一つ。木地玩具には、えじこや座り姿のねまりこなど種類も豊富です。場所を取らずに飾れるこけしは、書棚、机、階段など、どんな場所にあっても、こ

ろんとした姿のほんのり笑顔で、語りかけてきます。



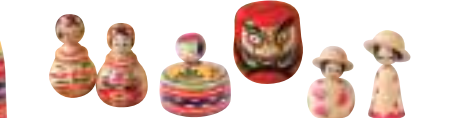
## 世代も国境も超える、かわいい

小さなこけしを連れて歩く若い女性も増えています。「『今日はこの人とおでかけ』と、かばんから出して見せてくれる人もいますよ」というのは鳴子こけし工人、岡崎靖男さん。こけし好きが高じて遠刈田こけし工人になっ

た小山芳美さん。「愛好家によって見るところが違い、1人の工人が描いたものでも同じものがないのも魅力です」。弥治郎こけし工人の新山吉紀さん、真由美さん夫妻は「収集したこけしが2000本近く。元気をもらえるから」とこけし部屋があるほど。仙台地区伝統

こけし工人の加納博さんは「国が違っても、かわいいの感覚は同じ。海外の方は『my kokeshi doll』と呼んでいます」。世代も言語も超越する、宮城の普遍的なかわいらしさです。

- 【取材協力】鳴子木地玩具協同組合  
 / 遠刈田伝統こけし工人組合  
 / 弥治郎こけし業協同組合  
 / 仙台地区伝統こけし工人組合



## 見る・触れる

こけしに出合える4つのサイト

産地ごとに、見て触れられる施設や、各工房を紹介。サイトによって商品の購入も可能です。







# 鳴子漆器

なるこしっき

1991年(平成3年)5月国指定

## 湯の里に培われる漆文化



【原材料】…木地(ケヤキ・トチなど)・漆  
 【主な製品名】…菓子器・重箱・花瓶・丸盆・汁わん他  
 【生産地】…大崎市

江戸前期、鳴子地区を治めていた岩出山伊達家の当主が、家臣を京都に派遣し、塗り蒔絵の修業をさせたことにより、漆器作りが盛んになったとされています。木地になる良質な木が豊富だったこともあり、江戸後期には、塗り物が温泉地、鳴子の主要な産物となっていきます。鳴子漆器は、華やか過ぎず、かしまり過ぎず。素朴で使いやすい丈夫な日用の漆器として、親しまれています。

In the early Edo period (1603-1868), the head of the Iwadeyama Date family, which ruled the Naruko area, sent his vassals to Kyoto to train them in lacquering and maki-e (a kind of lacquer work that uses gold powder), which historians believe led to the development of a flourishing lacquerware trade. The abundance of high-quality wood that could be used for the base of lacquerware was also a factor and by the late Edo period lacquerware was a major product for the hot spring town of Naruko. Suitable for daily use due to its simplicity, ease of use and durability, Naruko lacquerware is neither too ornate nor too formal.

### 300余年親しまれる日常の漆器

平和な時代を迎えた江戸中期。岩出山伊達家は、戦時に歩兵として行動していた足軽たちに屋敷を与え、漆器作りの振興を図りました。今も鳴子温泉街に残る新屋敷という地名が、その名残です。

300余年の歴史を持つ鳴子漆器をたどれば、脈々と受け継がれてきた漆文化が見えてきます。江戸後期、庶民の間で湯治が人気を集めると、湯元には数軒の塗物店が開業し、土産物として販売されるようになります。ケヤキ、トチ、カツラ、カイ、アズサ、カバ、クリ、サクラなどを素材に、茶櫃、飯櫃、椀、鉢、盆のほか、弁当、徳利、木皿などが作られ、産業として定着してきました。

戊辰戦争により、漆器が重要な産業となっていた会津から、多くの塗師が鳴子に移住したことも、鳴子漆器に大きな刺激となりました。

明治時代には、水車を使った木地工場が造られ、大型挽き物の技術も導入。2人挽きろくろから、水力や発電機などによる1人挽きろくろの利用により、製品も多様化してきます。明治末期に、最盛期を迎えたと伝えられています。

昭和時代に入り、生活様式の変化に合わせて新しい漆器の製造法に取り組んだのが、鳴子出身で東京美術学校(現東京藝術大学)に学んだ漆工芸研究

家の澤口悟一です。全国の漆器生産地の実態を調査し、『日本漆工の研究』を出版。伝統的な技法に化学的改良を加えるなど尽力しました。各地の漆器生産地から求められ講演を行う一方、長年にわたり技法の開発に取り組みます。考案されたのが、墨を流したような模様を作り出す「竜文塗」。鳴子独特



の変わり塗りです。

父を継いだ澤口滋も、全国の漆器業関係者に呼びかけて「明漆会」を設立。漆産業の未来のために、連携を図る拠点にもなりました。その培われた文化と精神は、若手の木地師や塗師が伝統的な技法に取り組む機運を醸成しています。

### 木目を生かす木地呂塗が代表

鳴子漆器は、さまざまな技法によって出来上がります。木地作りは、ろくろで丸く削った椀などの挽き物、重箱のような角物、薄い板を曲げて作る弁当箱などの曲げ物の3種類。その特徴は、挽き物木地の塗り立て技術です。仕上げとなる上塗りの表面を研ぎ出さず、漆を塗ったままの塗り立てで仕上げます。

代表する塗りの技法となるのが、木地の木目を見せる木地呂塗です。その工程は20から30にも及びます。まず、地域で多く採れたケヤキの木地を用い、下地作りに入りま



す。なめらかな肌の下地を作るため、砥粉と生漆を練り合わせた錆漆を木目の凹凸に塗り込み、研ぎ出します。塗りの工程に入ると、中塗りでは、目の細かい漆を塗り、室で乾かして研ぐことを、繰り返し、上塗りで仕上げます。



飴色がかかった半透明の精製漆「透漆」を重ね塗りした木地呂塗は、年月がたつうちに漆が透けて、木目が美しく浮かび上がってきます。経年変化を楽しめる漆ならではの使う喜びがあります。

鳴子の風土によって育まれた漆器は、木地作りと塗りの技術、研究を重ねてきた先人の

知恵や工夫に支えられてきました。素朴なぬくもりが感じられる日用の鳴子漆器は、使いやすいさと丈夫さが持ち味です。

【取材協力:大崎市鳴子総合支所 地域振興課】



見る・触れる

「大崎市 鳴子漆器」ウェブサイト

鳴子漆器の歴史、技法、椀や三段重の製品写真、問い合わせ先「鳴子総合支所 地域振興課」などが紹介されています。







# 雄勝硯

おがつすずり

1985年(昭和60年)5月国指定

## 伊達政宗に献上された硯



【原材料】…雄勝石(玄晶石)

【主な製品名】…浮き彫り彫刻硯・角型硯・自然石硯・蓋付硯・特殊硯他

【生産地】…石巻市他

室町前期から、石巻市雄勝町では硯が生産されていたと伝えられています。太平洋に面した雄勝町の一帯は、2億5000万年以上前の断層上にあり、この断層から硯の材料となる雄勝石が採掘されます。江戸時代には仙台藩の初代藩主、伊達政宗に献上され、明治から昭和時代には学童用の硯として広まり全国の硯の90%を生産。東日本大震災で大きな被害を受けましたが、再び雄勝硯が作られています。

Historians believe that inkstones have been produced in the Ogatsu district of Ishinomaki City since the early Muromachi period (1336-1573). Facing the Pacific Ocean, the Ogatsu district lies on a fault line that is over 250 million years old and miners take Ogatsu stone from that fault line to make inkstones. In the Edo period (1603-1868), Ogatsu inkstones were gifted to Date Masamune, the first lord of the Sendai Domain, and during the Meiji (1868-1912) and Showa (1926-1989) periods, they became popular as inkstones for school children, accounting for 90% of all inkstones produced in Japan. Although the Ogatsu district was severely damaged in the Great East Japan Earthquake (2011), production of Ogatsu inkstone has since resumed.

### 硯全体を使い、ノミで手彫り

雄勝硯の原石は、薄い板状の岩が何層も重なってできた黒色硬質粘板岩と呼ばれる玄晶石です。ほどよい硬さがあり、長い年月にも変質しない性質を持ち、粒子の均質さ、光沢などから、硯の原石として最も優れた特徴を持っています。

硯の形には大きく分けて3種類あります。

採石されたままの原石を生かした自然石硯。形を整えた天然石硯。蓋と硯本体の二つに分けて制作された共蓋付も天然石硯です。そして、硯

の基本的な形となる角型硯です。

雄勝硯生産販売協同組合の工人、徳水辰博さんは、雄勝石の磨きから入り8年目。現在、自然石硯を毎日約5面、ノミで彫り上げています。県外の大学でデザイン工芸を学んだ後、地元に戻って硯に携わるようになったのは、小学6年時の思い出が影響しています。「伝統工芸士の方が硯を彫る姿を版画にして、コンクールで入賞したのです」。版画の姿と同じように、今は徳水さんがノミの柄を肩に当て、上半身の力を利用して彫り上げています。

日々の仕事に追われながらも、目指している硯があります。工房に近接する石巻



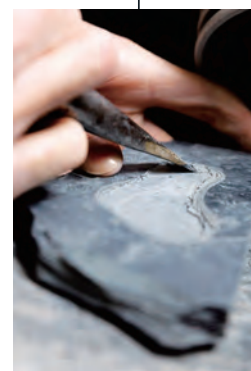
市雄勝硯伝統産業会館に展示されている「伊達政宗公が愛用した角型硯です。ただの四角い硯なのですが、それだけにきれいに彫るのが難しい。削り方もつなぎ



目も試行しています」。熟練の硯工人から助言されたのは「自学自習に勝るものはない」ということ。その言葉通り実行しているのは、「試行を止めないことです。彫れば必ず発見はあるので。発見を繰り返すために、行動を止めないこと」。経験が蓄積されています。

### 目立てにより鋒銚を浮き立てる

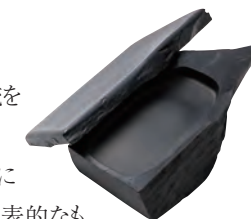
硯工人が最も大切にしているのは、鋒銚の目立てです。鋒銚とは、墨をする際にやすりの役目を果たす、硯の表面にある目に見えないほどの凹凸のこと。「硯の墨をする部分を泥砥石でする目立てによって、鋒銚を浮き立てます」という徳水さん。目立てに欠かせない、やわらかい泥



粘土は、雄勝の採石した石の中から見つけています。国内外の硯を収集し、墨のすり心地を試して実感することも多々あります。「雄勝で採れる質の良い石を目立てした硯は、墨のすり心地でいえば、中国の名硯の一つ歙州硯のような印象です。雄勝石は、潜在的な力が高

いのです」。

600年の歴史と伝統を受け継ぐ名硯である一方、さまざまな用途に使用されています。代表的な



のが、硯と同じ粘板岩を薄い板状に加工したスレートです。2012年に復元された東京駅丸の内駅舎の屋根にも、建築当時と同じ国産スレートとして雄勝石から作ったスレートが採用されました。また、現代的な皿や花器などオリジナル製品の開発や生産も行われています。多目的プレートや丸皿ラ



フカットも、1枚1枚異なる自然の風合いが楽しめます。保温と保冷に優れる雄勝石

の皿は、国内のフレンチレストランや高級料亭、海外の飲食店でも、漆黒の石肌が料理を引き立てると高く評価されています。

かつて、仙台藩が一般の採掘を許さなかった天然の雄勝石が、暮らしの中で潜在力を発揮しています。

【取材協力：雄勝硯生産販売協同組合】

### 見る・触れる

#### 「雄勝硯生産販売協同組合」サイト

政宗が愛用した硯(複製)や国内外の硯を展示する雄勝硯伝統産業会館の紹介など。雄勝石の皿もサイトから購入できます。







# 仙台箆笥

せんだいたんす

2015年(平成27年)6月国指定

## 100年先も共にある手業



【原材料】… 樺・杉・栗・桐・鉄・漆  
 【主な製品名】… 野郎箆笥・手許箆笥・舟箆笥・小箆笥・飾棚・車付き箆笥他  
 【生産地】… 仙台市他

江戸末期、仙台藩の地場産業として仙台箆笥は始まります。武士が刀を収める幅4尺(約120cm)を原型に発展。明治中期から欧米に向けて輸出し、立体的に打ち出した華やかな金具が加わり、全国でも類を見ない華麗な箆笥になりました。その後、大正から昭和にかけて嫁入り道具として普及。仙台近郊の旧家では100年以上使い続けられていることも少なくない、仙台を代表する伝統工芸品です。

Sendai tansu (chests) began as a local industry in the Sendai Domain at the end of the Edo period (1603-1868), first produced to be 120 centimeters wide and used by samurai for storing swords. They were exported to the West from the middle of the Meiji period (1868-1912) and, with the addition of gorgeous metal fittings hammered out for a three-dimensional effect, they became more magnificent than any other chests in Japan. Later, from the Taisho period (1912-1926) through the Showa period (1926-1989), Sendai tansu became popular as a dowry. It is not uncommon to find Sendai tansu that have been in use for more than 100 years in old houses in the suburbs of Sendai, and they are a traditional-crafts representation of Sendai itself.

### 三つの職人技が高め合った結晶

凛とした風格のあるたたずまい。仙台箆笥の特徴は、ケヤキを主材とする木目を生かした木地呂塗と、豪勢な飾り金具の意匠にあります。1棹の仙台箆笥は「指物師」

「塗師」「金具師」、三者の伝統の技が一体となって仕上げられます。

「仙台箆笥の華は漆と金具」ともいわれますが、その特徴を際立たせるために欠かせないのが、木の性質を知り、長年使用しても狂いが生じないように作る指物の技です。指物師の一人、関谷周一さんは、この道22年。木の



選定から製材、加工まで手掛けています。「仕事は三位一体。名工お二人の美意識を確認して進めます。

そして、100年後に修理されるとき恥ずかしくないように、今できる精一杯の力を尽くしています」。金属釘を使わず木釘だけで組み上げるのも、修理のしやすさと、見えないところの美しさも考えてのことです。



塗師として35年の栗谷秀樹さんは、木地呂塗を明るく仕上げる難易度の高い技に定評があります。天然の漆を塗って研ぐ工程を繰り返し、色目を薄く均一に、つややかな鏡面仕

上げにします。「伸びが良く、さめ細かな国産の生漆を、薄く塗っていきます。塗って磨いてを8回ほど行い、最終的な漆の厚み



は0.075ミリ。技術の高い指物と名工の金具に合わせるのですから、下手な仕事はできません」。

金具職人として86歳の今も金づちを握る八重樫榮吉さんは、自作した道具の鑿で、龍や牡丹、唐獅子といった吉祥文様を立体的に打ち出していきます。「唐獅子や龍になったつもりで、牡丹なら開いたつもりで」、鑿を打つリズム



によって全身が動きます。一番大切なことは「木地と塗りの仕事も理解していること。箆笥の仕上げとなるのが金具ですから、最後に総じて確認します」。三つの技の結晶となる、100年以上もつ箆笥が完成します。

### 経年変化を楽しめる一点もの

伝統を受け継ぐ幅4尺の武士型箆笥は、仙台では「野郎箆笥」と呼ばれ、親しまれています。一方、生活様式の変化に伴い使用法も多



様化しています。機能性とデザイン性で人気の舟箆笥は、かつて江戸中期から明治にかけて北前船に貴重品を入れて積み込まれたもの。現代の書棚や家具の上などわずかなスペースにも置くことができます。住空間に合わせて、置く場所や大きさ、漆



塗りの種類や色、金具のデザインも動物、植物、家紋など、オーダーメイドにも対応。家族構成の変化に合わせて、仙台箆笥を部分ごとに生かし小さいサイズに再生することも可能です。長い使用に耐えた後は、塗り直しや修理をしながら使い続けることができます。

経年変化を楽しめるのも愛着が増してくるところです。木地呂塗は、年月を重ねていくうちに漆の透明度が増し、木目が際立ち、自分だけの色とつやに育ってきます。和にも洋にも合う一点ものとして、国内外から高い評価を得る仙台箆笥は、木の生命を尊び、長く使い続ける文化も受け継いでいます。

【取材協力:仙台箆笥協同組合】

### 見る・触れる

#### 「仙台箆笥協同組合」ウェブサイト

仙台箆笥の歴史や職人の紹介をはじめ、オンラインショップでは小箆笥、舟箆笥、ローチェストなどを販売しています。







# 仙台張子

せんだいはりこ

1985年(昭和60年)5月県指定



## 伊達な文化に親しむ縁起物

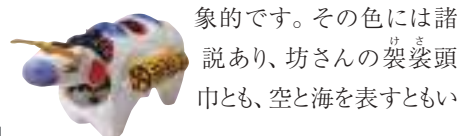
【原材料】…和紙・彩料・粘土  
 【主な製品名】…だるま・各種面・俵牛・虎・黒馬他  
 【生産地】…仙台市

江戸末期、仙台藩の下級武士による内職として始まった仙台張子。その代表が藩士松川豊之進が創始したとされる松川だるまです。かつて大崎八幡宮の元朝参りなどで求められ神棚に祀られていた縁起物は、近年、身近な存在として飾られています。

Production of Sendai Papier-Mâché began as a side job for low-ranking samurai of the Sendai Domain at the end of the Edo period (1603-1868). The Matsukawa Daruma doll is representative of Sendai Papier-Mâché and historians believe it was created by Toyonoshin Matsukawa, a samurai in the Sendai Domain. Many people buy Matsukawa Daruma, considered to be lucky charms, at the Osaki Hachiman Shrine during the first shrine visit of the new year and use them as decorations in their homes, making them a familiar sight in recent years.

### 四方八方を見守り吉祥を呼ぶ

仙台張子には虎、俵牛、福助、火伏だるま、すずめをはじめ、「黒面」と呼ばれる烏天狗や鍾馗など、さまざまあります。その代表格が、松川だるまです。制作を継承するのは、松川豊之進に弟子入りしたと伝えられる藩士の家系、本郷家。10代目の本郷久孝さん、尚子さん夫妻は「代々伝わってきた作り方を守りたい」と和紙を手張りするなど、手作業が続いています。松川だるまは、けがれをはらう赤色を使用しながらも、顔周りの青色が印



われています。顔立ちを象徴するのが黒々とした両目です。本郷さんは「願掛けではなく、四方八方を見守るのが仙台のだるま」と

当家が目を入れる習わしを守っています。松川だるまの系統はいくつかあり、仏師面徳の系譜を継ぐ木型で制作しているのが「つつみのおひなこや」です。4代目佐藤明彦さんは「伝統の形は守りながらも流行を取り入れたい」と、新たな彩色や猫をモチーフにした“伊達なだるまシリーズ”などを考案。「あらゆるジャンルに意識を向けて挑戦」し続けてい

ます。松川だるまは3寸(約9センチ)から1尺(約90センチ)まであり「七転び八起き」にちなみ、小さいものから順に毎年そろえる風習は今も残っています。



国内外から贈り物や記念品にと求められ、置く場所も部屋や玄関に。身近な場所から無病息災、家内安全を見守っています。

【取材協力:本郷だるま屋 / つつみのおひなこや】

### 見る・触れる

二つの工房で出会う、だるまや張子玩具

◆仙台張子の会(本郷だるま屋)

仙台市青葉区川平4-32-12

TEL.022-347-4837

◆つつみのおひなこや

(詳細はこちらから→)



# 堤焼

つつみやき

1982年(昭和57年)12月県指定



## 仙台の土壌が生む海鼠釉

【原材料】…赤土・岩石・粃殻灰(釉薬)  
 【主な製品名】…茶器・花瓶・酒器・食器他  
 【生産地】…仙台市

江戸前期、堤町に住む士族の副業として始まり、元禄七年(1694年)に仙台藩主が江戸の陶工を招き指導にあたらせ杉山焼とし、後に堤焼と名づけられた。付近の台原から採れる良質な粘土を使い、藩窯としてかつて多くの窯で水甕や鉢、食器等を生産。岩を砕いた黒釉に米の粃殻灰の白釉を掛け流した海鼠釉が特徴です。

During the early Edo period (1603-1868), pottery was practiced as a side job by samurai living in Tsutsumi-machi and in 1694 the lord of the Sendai Domain invited a potter from Edo to teach them how to make Sugiyama Pottery, which later became known as Tsutsumi Pottery. Using high-quality clay from nearby Dainohara, Tsutsumi became the Sendai Domain's official kiln and its many furnaces were used to produce water jugs, bowls, tableware and other items. The characteristic feature of Tsutsumi Pottery is its sea-cucumber glaze, made by pouring a white glaze made of rice-husk ash over a black glaze made of crushed rocks.

### 粗く力強い土を生かし約300年

御用瓦師の流れをくみ、藩主好みの茶器へ、庶民が用いる雑器へと変遷を重ねてきた堤焼の歴史は300年を超えます。地元で採れる粗く強い土の性質を生かし、明治から大正期には水甕を中心に、みそ甕、丸鉢などが作られ、仙台周辺の家々には海鼠釉が流し掛けられた大きな水甕がありました。その伝統を受け継ぐ唯一の窯元が「堤焼乾馬窯」です。初代が尾形乾山の流れをく



む陶工三浦乾也に弟子入りしたのが幕末。「乾」の字を授かり乾馬と名乗り、秘伝書『乾山秘

書』も伝わっています。5代目乾馬さんは「土こしらえや釉薬の調合など参考にしながらも、少しずつ新しい要素を取り入れている」と時代に求められる器を意識していま

す。変わらないのは、仙台の土を生かし、釉薬を作り、風土に根差した焼物を生み出すこと。地元の粘土層から掘り出した粗く強い土は食器に適した陶土へと、きめ細かく精製していきます。窯を支える弟の和馬さんと甥の峻さん、3人に通底するのは「陶一生の手習い」の家訓です。海鼠釉だけでなく、緑釉、灰

け止められているのが海鼠釉の器です。一つひとつ異なる表情や手触りを確かめながら選ぶ、学生や親子連れも少なくありません。小学

生の体験教室も多く受け入れ、「器の扱い方も覚えてもらえれば」と焼物を扱う所作までも文化として伝えていきます。

【取材協力:堤焼乾馬窯】



### 見る・触れる

「堤焼乾馬窯」ウェブサイト

堤焼の歴史、作り手、制作品、取扱店、体験教室などを紹介。堤焼乾馬窯には食器や花器をはじめ、大物の水甕や壺も展示されています。







# 切込焼

きりごめやき

1984年(昭和59年)2月県指定



## 白地に藍が冴える器が源流

【原材料】… 陶土・陶石・顔料(呉須)  
 【主な製品名】… 茶器・花器・置物  
 【生産地】… 加美町

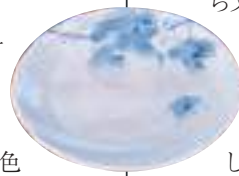
創始は諸説ありますが、江戸後期から明治初期まで宮崎町切込地区で生産されていた陶磁器を切込焼と呼びます。仙台藩の御用窯として栄える一方、素朴な日用雑器も生産。染付磁器を主流とする伝統を生かし作陶されています。

There are various theories regarding the origin of Kirigome Pottery, the name for pottery produced in the Kirigome area of Miyazaki Town from the late Edo period (1603-1868) through the early Meiji period (1868-1912). While it flourished as a kiln of the Sendai Domain, it also produced simple items for daily use. The main style of Kirigome Pottery is based in the sometsuke (Japanese blue-and-white pottery) tradition.

### 藩窯の流れをくむ技からの独創

切込地区周辺で得られる原料を用い、近隣の松の木を燃料として生産されていたのが切込焼です。その多くは、白地に藍色の呉須で模様を描いた染付磁器が占めます。復興時に陶房を構えた三浦征史さんは伝統を重んじ、切込焼を代表するらつきょう型徳利や大皿をはじめ、鉄釉などを施した普段使いの器を制作してきました。2002年に征史さん亡き後、妻の早苗さんと征太郎さん親子が陶房を受け継いでいます。瀬戸で粘土やろくろの基礎を学び、切込地区に戻った征太郎

さんは「釉薬の調合、窯入れ、炎の見方などは、父が残した記録を参考に」しながら父と自らの経験を重ね合わせた作陶を続けています。早苗さんは、



伝統から発想した呉須による絵付けを担当して35年以上。かつてグラフィックデザインの仕事をしていた経験と、独学で体得した墨絵の描き方により、下絵を描かず、線の勢いを大切に、筆を走らせませす。「技術は表面的なものではなく内面や哲学から生まれるもの。知らず知らず内面に蓄積したものが表出してくる」と庭先から眺める木々や野鳥、野の花が心象風景となっています。評価の高い染付のアクセサリと共に



に、征太郎さんがろくろで仕上げた生地に早苗さんが削り模様や造形を施した花器や食器なども多



数。伝統を受け継ぎつつ独創性あふれる器は、和にも洋にも合う切込焼として新築記念や日々の器に求められています。

【取材協力:三浦陶房】



### 見る・触れる

「切込焼 三浦陶房」ウェブサイト

切込焼の歴史や三浦征史さん、早苗さん、征太郎さんの作品をはじめ、実際に見て触れられる展示会の情報などを紹介しています。



# 堤人形

つつみにんぎょう

1984年(昭和59年)2月県指定



## 名を馳せる仙台の土人形

【原材料】… 粘土・顔料  
 【主な製品名】… 干支人形・ひな人形・能面・谷風他  
 【生産地】… 仙台市

西の伏見、東の堤と評される土人形の二代源流の一つ、堤人形。その始まりは江戸中期と伝えられています。歌舞伎や浮世絵から抜け出たような優雅な色彩と形は、東北の土人形や張子人形に大きく影響。現在も技と心が守り継がれています。

Tsutsumi dolls of the east are one of the two major types of clay dolls (the other being Fushimi dolls of the west) and historians believe they originated in the mid-Edo period (1603-1868). Their elegant colors and shapes, which look like something out of a kabuki play or ukiyo-e paintings, have influenced the clay dolls and papier-mâché dolls of the Tohoku region significantly and the techniques and spirit of Tsutsumi dolls are preserved to this day.

### たたくまいに生命を宿す質感

江戸時代から300年以上の歴史がある堤人形。芳賀堤人形製造所13代目の芳賀強さんは、この道60年以上。特に彩色の技能に卓越し「現代の名工」となった今も、日々「いい仕事をする」と念じて仕事に取り掛かります。型抜きした生地は、水を少し含ませた筆でさくれを直して滑らかな肌。彩色の材料である胡粉や顔料も乳鉢で粉摺りし、上澄みを濾したもので彩色します。人形の肌色は薄く塗り重ねること約5回。しっとりとしたきめ細かな肌が生

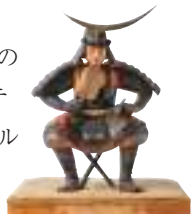
まれます。「顔料は無数にあり、同じ赤にもさまざまあります。一つの人形に赤い色が2カ所あれば、違う顔料を使い分けると変

化が出ます」と隔々まで手間を惜まず理想とする人形を追い続けています。丹念に作られるひな人形は数年待ち。十二支の干支を12年にわたって集める人が多いことも、信用の証です。堤人形の制作は2軒で行われており、「つつみのおひなこや」は4代目佐藤明彦さんが受け継いでいます。父親の吉夫さんが江戸時代の古型を使った人形を、明彦さんが自由な感覚で彩色した土人形を制作しています。「その時代に合わせていくの



が郷土人形。彩色は伝統の赤を基調としながら、パステルカラーや光沢のあるパール

系など中学生も手に取りやすい色柄や大きさ、動物系に」と1年に数体ずつ新作が登場。かわいらしい手のひらサイズやねこモチーフなど、斬新な新作が生み出されています。



【取材協力:芳賀堤人形製造所 / つつみのおひなこや】

### 見る・触れる

工房ごとに約100点の堤人形に出合える

◆芳賀堤人形製造所 芳賀強  
 仙台市青葉区堤町3-30-10  
 TEL.022-275-1133

◆つつみのおひなこや  
 (詳細はこちらから→)







# 玉虫塗

たまむしぬり

1985年(昭和60年)5月県指定



## 銀蒔が照り返す仙台の漆芸

昭和初期、輸出振興を目的として、仙台に設置された国立工芸指導所が開発した技法を源流としています。玉虫塗は、漆の上塗り前に銀粉を蒔くことで生まれる独特の発色が特徴。時代と共に、国内外向けの食器へ、文具へと変遷している仙台生まれの漆芸です。

Tamamushi lacquerware has its origins in a technique developed in the early Showa period (1926-1989) by the National Tohoku Craftwork Institute (established in Sendai to promote export) and is characterized by its unique coloring, which is produced by sprinkling silver powder on the lacquer before applying the topcoat. This Sendai-born lacquerware technique has evolved into tableware and stationery used both domestically and abroad.



### いつの時代も「使う工芸」

日本の産学連携の先駆けとして生まれた「玉虫塗」は、玉虫の羽に似た独特の色調と光沢から、その名が付きまじりました。昭和初期から玉虫塗を生産する「東北工芸製作所」。3代目の佐浦康洋さんは「使い続けられるため、より新たな価値をつくる」という理念を形にしています。産業総合技術研究所と共同開発した、傷に強く、耐久、耐紫外線性に優れた新技術は、食洗器

に使えるワインカップやグラスとして、また地元野球団のヘルメットに施されるなど、新たな用途へと広がっています。アスリートやアニメとコラボレーションした文具も含め、



一年間に約50種の商品開発。その中でも海外で評価されているのが、薄く透明度の高い松徳硝子に銀蒔と玉虫塗料を施した「TOUCH CLASSIC」シリーズのグラスです。常務取締役の佐浦みどりさんは「黒のグラデーションは宮城の稜線をイメージしたものに、お酒ならグラスの内側に銀蒔の輝きが透ける」と使う



楽しみも大切にしています。素材や形状を選ばず、均一にミスト塗装するのは塗



り経験40年の松川泰勝工場長です。玉虫塗は、3世代にわたり結婚式の記念品に選ばれるなど、国内外の生活スタイルにも合う工芸品として親しまれています。

【取材協力:東北工芸製作所】



### 見る・触れる

#### 「東北工芸製作所」ウェブサイト

商品一覧や取扱店などを紹介。希望に応じたオリジナルの玉虫塗や名入れ蒔絵体験の相談も可能。直営店では約30点に触られます。



# 仙台堆朱

せんだいついしゅ

1990年(平成2年)3月県指定



## 彫りの陰影が重厚な漆技

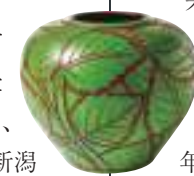
明治末期、新潟県村上市堆朱の工人川崎栄之丞によって技術が普及。大正期に型抜きで量産する技法が開発されたのが、仙台堆朱の始まりです。その後、蒔絵の技法を取り入れるなど変遷。現在、木地に彫刻し、漆で仕上げる技法が受け継がれています。

The technique was popularized in the late Meiji period (1868-1912) by Einojo Kawasaki, a Tsuishu craftsman from Murakami in Niigata Prefecture. In the Taisho period (1912-1926), a technique for mass production by die-cutting was developed, which was the beginning of Sendai Tsuishu Lacquerware, and later the technique evolved to include make-e. Today, the technique of carving on wood and finishing with lacquer continues to be passed down from generation to generation.



### 漆の技法を追求した一点ものへ

堆朱は、朱漆を厚く塗り重ねて文様を彫り出す、中国で生まれた漆芸の一つです。日本に伝わり、木彫りに漆仕上げとなったのが新潟の村上堆朱。仙台に伝わり、量産を目的に型押しが開始されました。昭和中期に「仙台臺堆朱製作所」を設立し、再興に尽力した南忠さんを祖父に持つ南一徳さんが、技を継承しています。「現代の名工」にも選ばれ、花鳥山水の文様から洋



室に合う文様へと蒔絵の技法も取り入れた祖父の下で、共に作った期間は約15年。「小学生のころ

車のプラモデルに朱漆を塗ったのが最初」という祖父ゆずりの、ものづくりの姿勢で堆朱作りは約30年に及びます。昼間は

継承した技で食器や名刺盆などを制作。夜は独自の作風を探究してきました。約20年前から取り組むのが、堆朱と乾漆の技法から考案して名付けた、素地のない「堆透」と「堆彩」です。色付けしていない漆を塗り重ねた堆透は、もみじが浮かぶ器も透明感が際立ちます。堆彩は、多彩な色漆を重ねて研ぎ出すことで生まれる色彩の層に評価を得ています。県内の伝統工芸の工人との交流から、堤焼乾馬窯で焼かれた素地に色漆を塗り重ねて研ぎ出す陶胎

漆器や、こけし工人がひいた木地に色漆と黒漆を施した藁など



も誕生しています。「今後は、思い出の図柄や生活空間に合う色調など、その人だけの希望に応える一点ものに」と、より愛着が増す仙台堆朱へと向かっています。

【取材協力:仙臺堆朱】



### 見る・触れる

#### 「こけしのしまぬぎ」ウェブサイト

菓子鉢や名刺盆、葉書入れなど「仙台堆朱」のさまざまな商品をオンラインショップから購入可能。本店でも取り扱っています。







# 埋木細工

うもれぎざいく

1982年(昭和57年)12月県指定



## 約500万年前の木が息づく

【原材料】…埋木  
【主な製品名】…盆・銘々皿・ブローチ・茶托・鷹置物他  
【生産地】…仙台市

江戸後期、仙台藩の下級武士が埋木を発見し、日常の工芸品を作ったことに始まるといわれています。約500万年前の樹木が地中に埋もれて炭化した山埋木を、手彫りの剝物技法と拭き漆によって仕上げられたのが埋木細工。全国に類のない仙台独特の工芸品です。

Historians believe that the art of lignite crafts originated in the late Edo period (1603-1868), when a low-ranking samurai of the Sendai Domain discovered lignite and started making everyday crafts. The lignite, which is formed from trees that were buried in the ground some 5 million years ago and then fossilized, is carved by hand using wood-hollowing techniques, then polished with lacquer. The craft is unique to Sendai and not found anywhere else in Japan.

### 希少な埋木を茶道具や美術品に

長い年月をかけて炭化した埋木は、仙台的青葉山や八木山一帯の亜炭層から掘り出されていました。日常に使われる盆、茶托、箸置き、また戦前から作られてきた鷹の置物も、家庭で身近に触れられてきました。青葉山のふもとで生まれ育ち、埋木職人だった父の技を継承する小竹孝さんは、埋木細工を60年以上作り続けています。亜炭の採掘が行われなくなった1955年以降は、蓄えておいた埋木を使用。限りある材料を生かすため、「量産品ではなく美術品にしよう」と、日本伝統工芸展に出

品するなど独学で技術を高めてきた」と眠らずに制作に打ち込んだ日々を振り返ります。埋木は硬く割れやすい材質のため力加減が難しく、のみで手彫りしていきます。茶道具の水指や茶入れ、茶筒など、全て手づくりぬき、拭き漆で仕上げます。「技術には、きりがありません。まず5年、また5年と重なっていく。500万年もたった木には、それぞれに独特の癖があって、その性質をしっかりとつかんだ上で形作ります」。亀をかたどった小物入れや、はまぐり形の香合など、重厚な姿は茶道の愛好者や海外からの観光客にも高く評価されています。現在は、求めに



て手彫りしていきま

を求めに



応じて指導する埋木のスプーンや箸作りのほか、培った技術を現代につなげるため、木目が詰まり乾燥しているブナ科のタモを材料とする飾篭や短冊篭も制作しています。太古からもたらされた天然の素材を生かした工芸品は、宮城ならではの木の文化を伝える一品です。

【取材協力:小竹孝氏】



### 見る・触れる

「秋保工芸の里」ウェブサイト

埋木細工の由来や工房、作品を紹介。工房では茶器、花器、香合、鷹の置物などの見学、和菓子ナイフの購入も可能です。



# 仙台平

せんだいひら

1985年(昭和60年)5月県指定



## 献上の袴地を継ぐ精巧な技

【原材料】…生糸・染料  
【主な製品名】…袴地・帯・ネクタイ・札入れ・名刺入れ他  
【生産地】…仙台市

「仙台平」は、江戸中期から続く高級絹織物です。しわになりにくく品位のある風合いを持ち、特に袴地は皇室や幕府への献上品としても珍重されました。その技術「精好仙台平」は重要無形文化財に指定。現在も国内外の栄えある授賞式で着用されています。

Sendaihira is a high-grade silk fabric that has been produced since the middle of the Edo period (1603-1868). It has a dignified texture that resists wrinkling and its hakama fabric in particular was highly valued as a gift to the imperial family and the shogunate. The technique of "Seigou Sendaihira" has been designated as an important intangible cultural asset. Clothes made with Sendaihira are still worn today at prestigious award ceremonies in Japan and abroad.

### 無数の絹糸が織り成す風合い

「仙台平」は、広瀬川のはとりにある合資会社仙台平で、同社代表で重要無形文化財保持者(人間国宝)である甲田綾郎さんによって織り続けられており、次女の悟子さんがその技術を受け継ぐべく日々研鑽を重ねています。精練、染色、織り、仕上げまでの約30工程を一貫して同社で行っています。素材には国産の上質な生糸、植物染料を使用します。経糸に練糸を、緯糸には極細の生糸を幾本も引き揃えられた撚りのない生糸を濡らして強く打ち

込むことで、目が細かく、張りのあるしなやかな生地に織り上がります。「仙台平」の袴は、座れば優雅に膨らみ、立てばさりりと折り目立ち、動けばきぬ擦

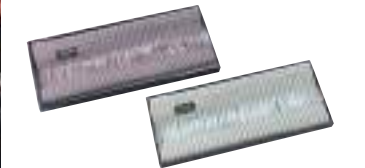


れの音がして、足さばきに従うといえます。その穿心地は、愛用者から「羽根のように軽く体に添ってくる」と感嘆の声が上がるほど。植物染料で染められる色系は、拡大鏡で目を凝らせば現代的な色合いも含めて精緻に織られています。「仙台平」と共に同社で製造されている「八ッ橋織」は、「仙台平」よりさらに歴史が古くやわらかい肌触り。七、五、三にちなむ縁起の

良い文様で慶び事に献上品として用いられてきました。武家文化を伝える織り地の名刺入れ、風呂敷などから、日々豊かさ

をもたらし絹の手触りを楽しめます。

【取材協力:仙台平】



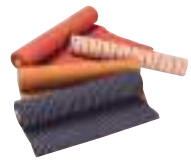
### 見る・触れる

「仙台平」公式サイト

礼装や舞台、茶道、子ども用など、用途に合わせた袴や帯も紹介。オンラインショップでは、スマホポシェットなど小物も購入できます。







# 若柳地織

わかやなぎじおり

1985年(昭和60年)5月県指定



## 100年紡ぐ心地よい縞木綿

【原材料】…綿糸・染料  
 【主な製品名】…室内着・のれん・ネクタイ・  
 札入れ・名刺入れ他  
 【生産地】…栗原市

宮城県北部の若柳地区を中心に綿織物が生産されたのは明治末期。大正期には豊田佐吉が発明した豊田式鉄製小幅動力織機(Y式)が導入され、地織は若柳名物といわれるまでに。さまざまな縞模様のほか、無地の織布も生産されています。

Cotton textiles were produced mainly in the Wakayanagi district in northern Miyagi Prefecture at the end of the Meiji period (1868-1912). In the Taisho period (1912-1926), Sakichi Toyoda introduced the Toyoda-style iron power loom (Y-type) and weaving became a Wakayanagi specialty. In addition to various striped patterns, the area also produces plain woven fabrics.

### 着るほどなじむ木綿の肌触り

大正期からの歴史を感じさせる木造の千葉孝機業場には、今も100年前から稼働するY式織機の音が響いています。3代目千葉孝順さんと家族により生産されている織布は、全てY式織機で織り上げられたものです。7色の木綿糸を使い分けて織り出す縞模様は、筋が細かい大名縞、太い縞と細い縞が一組になって繰り返される親子縞、太い縞から徐々に細い縞になっていく滝縞など、さまざまあります。布地全体に縞柄が入る「総柄」のほか、半分無地の「貝割れ」、「無地」も生産されています。



す。千葉さんは「基本の柄目や色目はあって、縞帳もありますが、頭の中に縞帳が入っています。ご要望があれば、例えば企業を象徴する色を意識したオリジナルの縞模様を作るといったこともできます」。企業とのコラボレーションにより車用シートカバーや布張りスツール用に利用される一方、羽織ものや、ゆったりとした作りで動きやすいもんぺなど、日常着も多彩。舟運で栄えた若柳を象徴する舟形コースター「織舟

渡し」、巾着、ペンケースなど、小物もそろいます。気に入った縞柄や無地の織布を使っものづくりを楽しむ



10代、20代も少なくなく、手作りしたものを見せられることも。長く使

うほど柔らかく肌になじんでくる、心地よさと木綿の風合いも楽しんでいます。

【取材協力:千葉孝機業場】



### 見る・触れる

日常着から小物、布地まで約80種を常設  
**千葉孝機業場**  
 栗原市若柳字川北塚ノ越12  
 TEL.0228-32-3087  
 「栗原市観光ポータルサイト」でも紹介されています。



# 白石和紙

しろいしわし

1982年(昭和57年)12月県指定



## 千年の系譜を継ぐ手漉き紙

【原材料】…トラフコウゾ・トロロアオイ  
 【主な製品名】…白石和紙・賞状用紙・うちわ制作キット・一閑張りキット・はがき他  
 【生産地】…白石市

ふくやかに、きよく、うるわしいと平安朝の昔、清少納言にも愛用された陸奥紙の良質をそのまま受け継ぐ白石和紙は、伊達政宗の殖産奨励保護の下に発展し、和紙を使った紙衣や、紙布織も名産に。現在も地元白石産の材料にこだわり、昔も今も変わらぬ技術・技法を引き継いで和紙作りが行われています。

Shiroishi Paper inherited the high quality of Mutsu Paper, which was promoted as being "rich, clean and beautiful" and loved by author, poet and court lady Sei Shōnagon during the Heian period (794-1185). Production of Shiroishi Paper increased under regional ruler Date Masamune's encouragement; kamiko and shifuori (paper garments) also became famous local specialties. Papermaking continues using locally sourced materials and the same traditional techniques and skills that were employed over 1,000 years ago.

### 原料を自家栽培し、文化を育む

白石和紙の特質は、藩政時代から奨励された品種トラフコウゾにあります。一般のコウゾと比べて繊維が長く柔らかく、独特のしなやかさと強さを生みます。2004年よりトラフコウゾや、紙を漉く際に欠かせないもう一つの材料トロロアオイを栽培し、和紙を生産しているのが市民グループ「白石和紙 蔵富人」です。白石和紙の良さを伝えたいと、2003年から「和紙あかり」の制作ワーク



の東大寺二月堂で行われる修二会(お水取り)で使用される紙衣を手掛けるなど、卓抜した技術や姿勢への敬意があったからです。その白石和紙を受け継

ぐ決意をしたのは、遠藤まし子さんの思いを受けてのこと。「文化を伝えることが、白石和紙を守ることになれば」と、2015年に白石和紙工房から道具一式を譲り受け、技法を継承しました。現在は白石圏内に住む20~60代の約10人が、原料の栽培から紙漉き、仕上げまで行っています。「数値では測れないことばかりですが、遠藤さんの紙に近づきたい」というのが願いです。中学生の卒業証書の制作体験

や、現在も継続する「和紙あかり」制作体験も、「文化的な価値を伝えたい」という思いから。ふくやかに、

美しくと平安の歌人にたたえられた紙の文化が、脈々と続きます。

【取材協力:白石和紙 蔵富人】

### 見る・触れる

「白石和紙 蔵富人」ウェブサイト  
 白石和紙の歴史や工程、ワークショップを紹介。市内の「寿丸屋敷」では展示販売のほか、原材料や紙布織用の道具なども見学可能です。







# 松笠風鈴

まつかさふうりん

【原材料】… 銑鉄・砂鉄  
【生産地】… 登米市

1982年(昭和57年)12月県指定



## 澄んだ音色は砂鉄の響き

江戸中期、仙台藩主から所望された風鈴を、鑄物師である10代目江田氏が創作したのが始まりとされています。鑄造時にできる巣穴を生かした砂鉄の風鈴は、音色の良さで選ばれ、その形から松笠風鈴と名付けられました。澄んだ音色と余韻が特徴です。

Historians believe that this wind bell was first created in the middle of the Edo period (1603-1868) by a 10th-generation Eda (master ironsmith) upon the request of the lord of the Sendai domain. Characterized by their clear, lingering sound, the iron-sand wind bells, which make use of the nesting holes created during casting, were named "Matsukasa Furin" (pine cone-shaped wind bells) because of their shape.



### 音色を追求して生まれた松笠形

日本古来の製鉄法である「たたら製鉄」によって砂鉄を製錬し、得られる純度の高い良質な和銑を用いて、松笠風鈴は作られています。一子相伝の技を受け継ぐのは、江田家23代目の江田蕙さんです。登米市に工房があるのは、「かつて北上川の上流から質の良い砂鉄が採れたことと、舟運

による利便性の良さがあったこと」によります。江田さんによれば「藩政時代に風鈴が

はやり始めたころ、進取の気風がある伊達家から鑄物師に注文が出され、音の良

きで認められたのが、この風鈴。変わった形で、まっぼっくりに似ているので松笠風鈴と命名されたようです。その形は、和銑を型に流し込んで固まった形状そのまま。一つとして同じものはありません。砂鉄を溶かすには1500度以上が必要で、気象条件が整わなければ温度が

上がらず、薄く作ることができない難しさがあります。また、薄い風鈴は、穴が空いたり、割れたりしやすく、松笠風鈴として製品化できるのは30%ほど。最上級の音色となると、さらに少なくなります。その音色は、透



き通って軽やか。理由は「砂鉄が約8割を占めるからです。鉄鉱石より圧倒的に硬く、余韻が長く澄んだ音が響きます」。希少な砂鉄と熟練の和銑製法から生まれる松笠風鈴は、風に揺れる姿にも雅趣があり、国内外を問わず好まれています。

【取材協力:江雲堂】



### 見る・触れる

#### 「松笠風鈴」ウェブサイト

松笠風鈴の沿革、作家の略歴、特徴、音色により異なる商品や価格帯も紹介。「松笠風鈴」で検索すれば、動画で音色を聞くこともできます。



# 中新田打刃物

なかにいどうちはもの

【原材料】… 地鉄・鋼  
【主な製品名】… 鎌・各種包丁  
【生産地】… 加美町

1982年(昭和57年)12月県指定



## 仙台藩の刀匠に始まる製法

江戸前期、仙台藩の刃匠丹野五郎兵衛が中新田地域に適した鎌を作ったのが中新田打刃物の始まりと伝えられています。刀鍛冶の技法に新しい技術を加え、熱して、打って、形を整えていく空打式により、切れ味がよく使いやすい鎌や包丁が作られています。

Historians believe that the origin of Nakaniida edged tools dates back to the early Edo period (1603-1868) when Gorobei Tanno, a bladesmith of the Sendai Domain, made sickles suitable for the Nakaniida area. These sharp and easy-to-use sickles and kitchen knives are produced by combining new technology and traditional sword-crafting techniques with steps such as heating, hammering and shaping using the "kara-uchi" method (forging when the iron is at room temperature).



### すし職人も愛用する宮城の包丁

鋼は熱してたくことで、強度が高まります。良質の鋼と地金を炉で熱し、接合するためにたく鍛接の頃合いを見極める際にも、長年の経験と勘が欠かせません。伝統を継承する石川刃物製作所の4代目石川美智雄さんは、この道に入って約50年。「鍛接で温度を下げ過ぎるとくつつかない、上げると鋼の成分が溶けて切れ味が悪くなる。一人前になるまで10年かかる」と失敗から学び、自分で考えることで技術を体得してきました。製作工程は、焼いて、たたいての繰り返し。3回行う空打ちは、接合する、

伸ばす、平らにする意味があり、それぞれ道具も変えています。切れ味を決めるのが、空打ち後の焼き入れの工程です。高温から急冷することで、鋼が持っている成分を活性化し、硬度を高めます。耐久に優れ、研ぎやすい表鋼の鎌は、幅広で薄く軽いのが特徴です。包丁に用いる鋼の種類には「白紙」と「青紙」があり、「一般の人には研ぎやすい白紙を、料理人には研ぎにくくても切れ味が長持ちする青紙を勧めています」。

三徳包丁、菜切り包丁、出刃包丁、刺身包丁など、それぞれ大小4、5種類そろい、手にした感覚で選ぶ人が多数。切れ味の良さと、

切った断面の美しさに魅了される職人は、包丁を全種類そろえるほど。近年、海外でも和食ブームや鑑賞用として人気が高まっています。実際に使ってみて分かる、実直な仕事。軽く、切れ味のいい、宮城の打刃物です。

【取材協力:石川刃物製作所】



### 見る・触れる

#### 「中新田打刃物」紹介動画

一丁ずつ空打ちして作られる工程や愛用者のインタビューなどを紹介。「石川刃物製作所」Facebookでは各種包丁を見ることができます。







# 岩出山しの竹細工

いわでやましのたけざいく

【原材料】…しの竹・唐竹  
 【主な製品名】…米とぎざる・浅ざる・目かご  
 【生産地】…大崎市

1982年(昭和57年)12月県指定



## 300年の伝統を編む熟練の技

江戸中期、岩出山城主が京都の竹細工職人を招いて創始されたと伝えられています。城主の夫人が京都出身であったことから竹林造営と職人の技術を導入。藩士の副業として奨励され、後に農閑期の副業に。現在も広く日用品として愛用されています。

Historians believe that Iwadeyama Bamboo Crafts were created in the middle of the Edo period (1603-1868) by the lord of Iwadeyama Castle, who hired bamboo craftsmen from Kyoto. The lord's wife was a Kyoto native, which led to the planting of bamboo groves and the introduction of skills from craftsmen. Crafting was encouraged as a side job for the samurai class and later it became a side job for farmers during the off-season. These bamboo crafts are still used on a daily basis in parts of Miyagi.



### 素材や形状に長年の知恵が凝縮

ざるやかごの素材となるササの一種、しの竹が岩出山では豊富に採れます。伝統的な竹細工には、大小8組の「伝統ざる」をはじめ、「ご飯ざる」「山菜ふご」「魚ふご(ピク)」などがあり、全てが生活道具の必需品として、用途に応じた形と大きさが作り出されています。しの竹細工を代表するのが伝統ざるの形である「米とぎざる」です。端正な編み目と、自然素材の手触りの良さはもとより、竹の皮だけを使い、表皮をざるの内側にして編むことで、米を傷つけることなく水切れ良いのが特徴です。竹細工指導員として大



崎市竹工芸館で後進の育成を図る千葉文夫さんは、幼いころから両親や祖母、近所の年配

の女性たちが編む姿を見てきました。父親が形作っていく竹細工の技に感化され、編み始めて約45年。岩出山に自生する1年目のしの竹を吟味して伐り出し、材料の

長さや堅さを頭に入れて編んでいきます。「材料を無駄にせず作る、というのがあります。自然の素材を使っているの、どこから見ても完璧な仕上がりがというわけにはいきません。それでも理想の形に近づ



くようにもっていく。その気持ちがなければ成長はしませんから」。親から子へと代々受け継がれてきた岩出山の技で丁寧な編まれるざるやかご。米とぎざるは、果物や野菜、小物を入れる道具などに。亀甲の目がかわいらしい目かごは、壁に掛ければ飾りに。300年も生活を共にしてきた便利で美しい道具です。

【取材協力:大崎市竹工芸館】

### 見る・触れる

#### 「大崎市竹工芸館」ウェブサイト

米とぎざるやご飯ざる、インテリアなどの作品を紹介。現地では制作・実演を見学でき、しの竹細工づくり体験教室も開催しています。



# 仙台釣竿

せんだいつりざお

【原材料】…繊維質が太い国産の古竹 / 布袋竹・高野竹・真竹・淡竹等々  
 【主な製品名】…並継ぎ竹竿 / タナゴ・鮎・鮒・テンカラ・フライ等々  
 【生産地】…仙台市

1985年(昭和60年)5月県指定



## 古竹と本漆で拵える道具としての釣竿

1601年、四百数十年前、仙台藩を開いた藩祖伊達政宗が愛用していた鮎竿を、昭和初期に竿政が修復。ドッシリとした拵えと野太い調子の仙台竿を現代に蘇らせました。その粋な装飾と細仕かけで大物を釣り上げる本調子が、仙台竿「竿吉」の始まりです。

In the early Showa period (1926-1989), Saomasa restored a favorite fishing rod of Date Masamune, the founder of the Sendai Domain (which dates back to 1601), thus reviving the Sendai Fishing Rod, which features a sturdy, thick tip, for the modern age. The chic decorations and the fine craftsmanship of the rod tip for catching big fish are the origin of the Sendai Fishing Rod "Saoyoshi."



### 釣り人の技に応える竿吉

初代仙台藩主伊達政宗の頃より、幾多の釣り師と竿師、それぞれの技のぶつかり合いによって、長年の間、研鑽され現代に至るのが仙台竿。最後の仙台竿師となった、竿政が手掛けるのが仙台竿「竿吉」。真鮎、ヘラ、タナゴ、鮎、テンカラ、フライと、手練れの釣り師の注文に応え続けています。自ら釣り場に立つ事で、飾るだけのお座敷竿とは違い、道具としての釣竿を造り続けています。その多くは、並継ぎ細工で、別注小間継ぎも制作。継ぎの細工が冴える竿吉は、継ぎ目が分からず、一本の竹のように弧を描きま



す。吟味された古竹から木取り継がれた竿吉は、大物の引きをフワリと胴に入れて暴れさせない本調子。これこそが竿吉の真骨頂。国産漆に拘り、先代より受け継ぐ拵えの技は、蒔絵、象嵌、根来、梨地はもとより、竿政独自の陽の光を閉じこめた粋な塗りも生み出しました。こうした技巧は、釣り竿だけ

に留まらず、金継ぎや乾漆の茶器、塗りを凝らした和道具や装飾品、最近では万年筆も手掛けています。そんな竿政が頑なに貫く思いは、釣竿に限らず、竿政の作品を手にする人が、「いいねえ」と微笑む仕事の更なる高みを目指し、技の錬磨に励むこと。そんな仙台竿

師竿政の仕事は、国内ばかりか海外の釣り師からも熱い視線が注がれています。

【取材協力:竿政竹竿製造店】

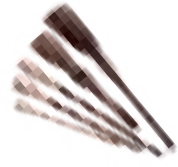
### 見る・触れる

#### 仙台釣竿の実物と実演の見学も可能

竿政竹竿製造店 田村政孝  
 仙台市若林区南鍛冶町106-2  
 TEL.022-227-0374  
 仙台釣竿や万年筆の購入も可能です。  
 ※電話予約必要







# 仙台御筆

せんだいおふで

1985年(昭和60年)5月県指定



## 藩祖の時代から品質重視

- 【原材料】… 獣毛(馬、狸、羊など)、しの竹など
- 【主な製品名】… 各種書道用筆
- 【生産地】… 仙台市

江戸初期、仙台藩祖の伊達政宗が藩の学問と産業振興を目的に、大坂の筆職人を雇い創始したと伝えられています。良質の原毛を使用し、1人の筆匠が一貫して作り上げる仙台御筆は、弾力があって墨持ちがよく、長年にわたって愛用できるのが特徴です。

Historians say that in the early Edo period (1603-1868), Date Masamune, the founder of the Sendai Domain, hired brush craftsman from Osaka to create the Sendai Calligraphy Brush for the purpose of promoting the domain's education and industry. Made by a single craftsman using high-quality raw hair, the Sendai Calligraphy Brush is characterized by its elasticity and ink retention and can be used for many years.



### 上達に導く、書き味の良い御筆

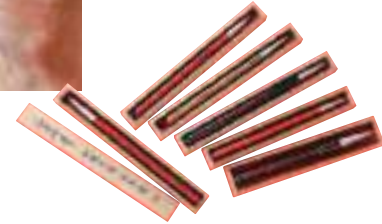
仙台藩御用筆師によって筆作りが栄え、質に秀でた筆は、江戸や京都にも名声が広がったといえます。藩政時代には、宮城のほぎ野萩を軸とした萩筆。明治初期から戦前までは、万葉集や古今集に詠われた歌枕にちなむ萩、松、葎、蓼、薄の草木5種類を軸とする「五色筆」が作られた歴史もあります。書家向けの仙台御筆を数多く手掛けてきた筆匠のひろおき大友博興さんは「穂首に指を当てただけで、どの毛が、どのくらい足りないか、瞬時にわかるようになるまで約10年かかります。とにかく手を抜かないこと。動物の毛には細い、太い、硬

い、柔らかい、波打っている、いろいろです。癖を取る場合、仙台では火のしではなく熱湯に浸けて伸ばします」。産毛だけを使用し、先端を切らずに仕上げる筆は、羊毛筆なら約5種類の毛を組み合わせ、むらがないよう幾度も混ぜ合わせます。文字を書く時に大切な命毛の力を十分に発揮できるよう、目と指の感覚も研ぎ澄まし、一本一本の毛を感じながら作っていきます。誠実に真摯な仕事に信頼され、東北の書道界をけん引する書家からの注文を受けてきました。「大切に使えば50年持ち、使ううちに墨を含んでしっとりとした飴色に変わってくる」という御筆。初めて使った人からは「字が上手になった気がする」という声が



上がります。細字用から特大筆まで、毛の質や軸の種類もさまざま。用途や感覚に合わせて御筆を選ぶ喜びが、書の楽しみにつながります。

【取材協力:大友毛筆店】



### 見る・触れる

**仙台御筆が数々そろう西川玉林堂**  
初心者から書家向けまで、仙台市の「西川玉林堂」で御筆に触られます。  
(有)西川玉林堂  
仙台市若林区荒町201  
TEL.022-223-8217

# 宮城県の伝統的工芸品マップ

**宮城伝統こけし (P3-4)**  
Miyagi Traditional Kokeshi Wooden Dolls

**鳴子漆器 (P5-6)**  
Naruko Lacquerware

**岩出山しの竹細工 (P23)**  
Iwadeyama Bamboo Crafts

**若柳地織 (P19)**  
Wakayanagi Textile Fabric

**栗原市 Kurihara**

**大崎市 Osaki**

**加美町 Kami**

**登米市 Tome**

**松笠風鈴 (P21)**  
Pine Cone-shaped Wind Bells

**石巻市 Ishinomaki**

**雄勝硯 (P7-8)**  
Ogatsu Inkstones

**切込焼 (P13)**  
Kirigome Pottery

**中新田打刃物 (P22)**  
Nakaniiida Edged Tools

**仙台市 Sendai**

**蔵王町 Zao**

**白石市 Shiroishi**

**宮城伝統こけし (P3-4)**  
Miyagi Traditional Kokeshi Wooden Dolls

**仙台筆筒 (P9-10)**  
Sendai Tansu

**仙台張子 (P11)**  
Sendai Papier-Mâché

**堤焼 (P12)**  
Tsutsumi Pottery

**堤人形 (P14)**  
Tsutsumi Dolls

**玉虫塗 (P15)**  
Tamamushi Lacquerware

**仙台堆朱 (P16)**  
Sendai Tsuishu Lacquerware

**埋木細工 (P17)**  
Lignite Crafts

**仙台平 (P18)**  
Sendaihira (Silk Fabric)

**仙台釣竿 (P24)**  
Sendai Fishing Rods

**仙台御筆 (P25)**  
Sendai Calligraphy Brush

**宮城伝統こけし (P3-4)**  
Miyagi Traditional Kokeshi Wooden Dolls

**白石和紙 (P20)**  
Shiroishi Paper

**「国指定伝統的工芸品」・「県指定伝統的工芸品」**

<b>国指定</b>		100年以上の歴史を有し、経済産業大臣の指定を受けた工芸品	<b>県指定</b>		50年以上の歴史を有し、宮城県知事の指定を受けた工芸品
主として日常生活の用に供されるもの					
その製造過程の主要部分が手工的であるもの					
伝統的な技術又は技法により製造されるもの					
伝統的に使用されてきた原材料が主たる原材料として用いられ、製造されるもの					
一定の地域において少なくない数の者がその製造を行い、又はその製造に従事しているもの(国指定)					



# 体験・見学できる伝統工芸品

## 宮城伝統こけし

体験 見学

### 「青葉城本丸会館」 銘品館



写真提供:宮城県観光プロモーション推進室

仙台城址にある「青葉城本丸会館」銘品館では、常時こけし工人による実演の見学や絵付け体験を楽しめます。絵付け体験を希望する場合は、前もって予約が必要です(小人数可)。

〒980-0862 仙台市青葉区川内1  
 ☎なし  
 開 9:00~17:00  
 ☎022-222-0218  
 絵付け体験/1,200円

## 宮城伝統こけし(弥治郎系)

体験 見学

### 白石市弥治郎こけし村



「弥治郎系」を中心に、こけしやこけしに関する資料を展示・販売。こけしの絵付け体験も可能で、中庭の工房や作業場では工人たちの制作風景を自由に見学できます。

〒989-0733 白石市福岡八宮弥治郎北72-1  
 ☎水曜(祝祭日の場合は翌平日)、年末年始  
 開 9:00~17:00(11~3月は9:00~16:00)  
 ☎0224-26-3993  
 絵付け体験/850円

## 雄勝硯

見学

### 雄勝硯伝統産業会館



「道の駅 硯上の里おがつ」の雄勝観光物産交流館に併設。雄勝石の歴史や硯の製造工程などを展示しています。雄勝硯や雄勝石のテーブルウェアも購入できます。

〒986-1335 石巻市雄勝町下雄勝2丁目17番地  
 ☎火曜(祝祭日の場合は翌日休)、年末年始  
 開 9:00~16:30  
 ☎0225-57-3211  
 観覧料/大人(高校生以上)200円、小人100円

## 仙台張子・堤人形

体験 見学

### つつみのおひなっこや



江戸時代から伝わる古型で形づくられ、彩色される様子を間近で見学可能。職人の指導のもと、堤人形や松川だるまの絵付けも体験できます。作品の購入も可能です。

〒981-0902 仙台市青葉区北根1丁目16-14  
 ☎不定休  
 開 9:00~18:00  
 ☎022-725-3757  
 絵付け体験/1,500円~

## 宮城伝統こけし(鳴子系)

体験 見学

### 日本こけし館



東北各地に伝承される伝統こけし11系統全てや木地玩具を展示・販売しています。日替わりでこけし工人たちの実演見学やこけしの絵付け体験も可能です。

〒989-6827 大崎市鳴子温泉字辰前74-2  
 ☎1月~3月末まで冬季閉館  
 開 8:30~17:00(12月は9:00~16:00)  
 ☎0229-83-3600  
 入館料/大人400円、中高生160円、小学生120円、こけし絵付け体験/1,500円

## 宮城伝統こけし(遠刈田系)

体験 見学

### みやぎ蔵王こけし館



館内展示ブースで、東北の伝統こけしや木地玩具を約5,500点とこけし作りの道具・資料を展示しています。またこけしの絵付け体験(要予約)でオリジナルこけしも作成できます。

〒989-0916 蔵王町遠刈田温泉字新地西裏山36番地135  
 ☎なし(年末年始12/29~1/3は最終入場15:00まで)  
 開 9:00~17:00  
 ☎0224-34-2385  
 入館料/大人350円、子供(小中学生)200円、こけし絵付け体験/1,000円

## 仙台筆筒

見学

### 仙台筆筒歴史工芸館



仙台筆筒の魅力を感じられる「まちかどミュージアム」として開館。江戸時代から近年まで時代別に仙台筆筒を展示し、製造工程や歴史を紹介しします。

〒980-0014 仙台市青葉区本町2丁目7-3 ユノメ家具本店4階  
 ☎火曜  
 開 11:00~18:00  
 ☎022-225-8368

## 堤人形

見学

### 芳賀堤人形製造所



文化年間から続く老舗の堤人形製造所。13代当主の見事な技を見ることが出来ます(要予約)。完全受注生産のため、購入を希望する場合は前もって相談を。

〒981-0912 仙台市青葉区堤町3-30-10  
 ☎日曜・祝日(不定休)  
 開 9:00~18:00  
 ☎022-275-1133

## 玉虫塗

体験 見学

### 東北工芸製作所



ポストカードの制作や商品に名入れする蒔絵体験ができます。ショップには、伝統的な作品から現代のライフスタイルに合うスタイリッシュなデザインのものまで幅広く揃います。

〒980-0011 仙台市青葉区上杉3-3-20 ユナイト上杉1階  
 ☎土・日・月曜、祝日  
 開 10:00~18:00  
 ☎022-222-5401  
 玉虫塗蒔絵体験/2,200円~

## 岩出山しの竹細工

体験 見学

### 大崎市竹工芸館



「しの竹細工」の竹細工体験(1週間前までに要予約)や職人による実演を楽しめます。ざるやかご、インテリア、オブジェも展示・販売し、竹細工の魅力伝えます。

〒989-6436 大崎市岩出山字二ノ構115番地  
 ☎水曜、年末年始  
 開 9:00~17:00  
 ☎0229-73-1850  
 しの竹細工づくり体験/300円~

## 切込焼

体験 見学

### ふるさと陶芸館 切込焼記念館



「切込焼」について作品や資料を展示するほか、地域の歴史・文化についても紹介しています。隣接する「郷土文化保存伝習館」では、陶芸体験や絵付け体験を楽しめます。

〒981-4401 加美町宮崎切込3 ☎第2-4月曜(祝日の場合翌日休)、年末年始 ※臨時休館あり  
 開 10:00~16:30、陶芸体験受付時間/午前の部10:00~10:30、午後の部13:00~13:30  
 ☎0229-69-5751 入館料/大人300円、65歳以上・高校・大学生200円、小中学生150円、陶芸体験/1,500円(大人)

## 埋木細工

見学

### 茶器 埋もれ木



伝統工芸の職人たちが集う「秋保工芸の里」内に工房があります。いくつもの工程を経て作られる埋木細工の制作風景、置物やコーヒースプーンなどを見学できます。

〒982-0241 仙台市太白区秋保町湯元字上原54-30  
 ☎不定休  
 開 9:00~17:00

## 若柳地織

見学

### 若柳地織はたや



大正4年に豊田佐吉翁が発明した豊田式鉄製小幅動力織機(Y式)が稼働する工場を見学できます(要予約)。併設の「はたや」では、若柳地織で作られたアイテムを購入できます。

〒989-5501 栗原市若柳字川北塚ノ越12  
 ☎不定休  
 開 9:00~18:00  
 ☎0228-32-3087

## 堤焼

体験 見学

### 堤焼乾馬窯



堤焼の陶芸体験教室を開催しています(要予約、3名以下は要相談)。展示場ではお気に入りの商品を購入でき、事前に相談すれば窯場の見学も可能です。

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈字赤坂8-4 ☎工房/日曜、祝日、体験教室/予約時のみ営業(12~2月休み) 開 9:00~18:00(時間外応相談) ☎022-372-3639  
 陶芸体験/大人(1kg)3,200円、子供(500g)1,600円(作品発送の場合、送料別途)

## 白石和紙

見学

### 壽丸屋敷



明治から大正時代に建てられた「壽丸屋敷(すまるやしき)」内の常設展「白石和紙展」では製造過程や歴史を展示。和紙製品やうちわキットなども購入できます。

〒989-0273 白石市中町48  
 ☎火曜、年末年始  
 開 10:00~16:00 ※変更あり  
 ☎0224-25-6054

## 鳴子漆器

体験 見学

### 佐藤漆工房 ギャラリー漆木舎



鳴子漆器の箸やお皿に漆で絵や文字を書き金粉で仕上げる蒔絵体験が楽しめます(4名以上、3日前までに要予約)。体験は漆器でいただくランチ付きですが、体験のみも可能です。

〒989-6835 大崎市鳴子温泉字南原200  
 ☎不定休  
 開 9:30~17:00、蒔絵体験11:30~14:30  
 ☎0229-87-2361  
 鳴子漆器蒔絵体験/5,000円(昼食代込)



## 問い合わせ先一覧

関係機関名／Office	住所等／Address		
<b>宮城伝統こけし</b> <small>みやぎでんとうこけし</small>	<b>Miyagi Traditional Kokeshi Wooden Dolls</b>		
<b>鳴子木地玩具協同組合</b> Naruko Wooden Toy Cooperation	〒989-6827 大崎市鳴子温泉字尿管前74-2(日本こけし館) 74-2 Shitomae,Narukoonsen,Osaki,Miyagi 989-6827	Tel.0229-83-3600	
<b>遠刈田伝統こけし工人組合</b> Togatta Traditional Kokeshi Craftsmen Association	〒989-0916 蔵王町遠刈田温泉字新地西裏山36番地135(みやぎ蔵王こけし館) 36-135 Nishiurayama,Shinchi,Togattaonsen,Zao-machi,Miyagi 989-0916	Tel.0224-34-2385	
<b>弥治郎こけし業協同組合</b> Yajiro Kokeshi Makers' Cooperation	〒989-0733 白石市福岡八宮弥治郎北72-1(白石市弥治郎こけし村) 72-1 Yajirokita,Yatsumiya,Fukuoka,Shiroishi,Miyagi 989-0733	Tel.0224-26-3993	
<b>仙台地区伝統こけし工人組合</b> Sendai District Traditional Kokeshi Artisan Association	〒989-3212 仙台市青葉区芋沢字沢田下15 15 Sawadashimo,Imozawa,Aoba-ku,Sendai,Miyagi 989-3212	Tel.022-394-6030 090-8783-9105(事務局早坂)	
<b>鳴子漆器</b> <small>なるこしつき</small>	<b>Naruko Lacquerware</b>		
<b>大崎市鳴子総合支所</b> Osaki City Naruko Office	〒989-6892 大崎市鳴子温泉字鷺ノ巢86番地1 86-1 Washinosu, Narukoonsen, Osaki, Miyagi 989-6892	Tel.0229-82-2111	
<b>雄勝硯</b> <small>おがつすずり</small>	<b>Ogatsu Inkstones</b>		
<b>雄勝硯生産販売協同組合</b> Ogatsu Suzuri Association	〒986-1335 石巻市雄勝町下雄勝2丁目17番地 2-17 Shimo-Ogatsu, Ogatsu-cho, Ishinomaki, Miyagi 986-1335	Tel.0225-57-2632	
<b>仙台筆筒</b> <small>せんだいたんす</small>	<b>Sendai Tansu</b>		
<b>仙台筆筒協同組合</b> Sendai Tansu Cooperative	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-7-3 ユノメ家具本店4階 Yunome Home furniture store 4F 2-7-3 Honcho, Aoba-ku,Sendai,Miyagi 980-0014	Tel.022-225-8368	
<b>仙台張子</b> <small>せんだいはりこ</small>	<b>Sendai Papier-Mâché</b>		
<b>仙台張子の会</b> Society of Sendai Papier-Mache	〒981-0954 仙台市青葉区川平4丁目32-12 4-32-12 Kawadaira,Aoba-ku,Sendai,Miyagi 981-0954	Tel.022-347-4837	
<b>堤焼</b> <small>つつみやき</small>	<b>Tsutsumi Pottery</b>		
<b>(株)堤焼乾馬窯</b> Kenba Kiln of Tsutsumi Ware Co.	〒981-3121 仙台市泉区上谷刈字赤坂8-4 8-4 Akasaka,Kamiyagari,Izumi-ku,Sendai,Miyagi 981-3121	Tel.022-372-3639	
<b>切込焼</b> <small>きりごめやき</small>	<b>Kirigome Pottery</b>		
<b>三浦陶房</b> Miura Pottery Studio	〒981-4401 加美町宮崎字中野1-30 1-30 Nakano,Miyazaki,Kami,Miyagi 981-4401	Tel.0229-69-5152	
<b>堤人形</b> <small>つつみにんぎょう</small>	<b>Tsutsumi Dolls</b>		
<b>芳賀堤人形製造所 芳賀強</b> Haga Tsutsumi Dolls Co., Tsuyoshi Haga	〒981-0912 仙台市青葉区堤町3-30-10 3-30-10 Tsutsumi-machi,Aoba-ku,Sendai,Miyagi 981-0912	Tel.022-275-1133	
<b>つつみのおひなっこや 佐藤明彦</b> Tsutsumi no Ohinakkoya Co., Akihiko Sato	〒981-0902 仙台市青葉区北根1丁目16-14 1-16-14 Kitane,Aoba-ku,Sendai,Miyagi 981-0902	Tel.022-725-3757	

関係機関名／Office	住所等／Address		
<b>玉虫塗</b> <small>たまむしぬり</small>	<b>Tamamushi Lacquerware</b>		
<b>(有)東北工芸製作所</b> TOHOKU KOGEI Co., Ltd.	〒980-0011 仙台市青葉区上杉3丁目3-20 ユナイト上杉ビル1階 3-3-20 Unite Kamisugi1F Kamisugi,Aoba-ku,Sendai,Miyagi 980-0011	Tel.022-222-5401	
<b>埋木細工</b> <small>うもれぎざいく</small>	<b>Lignite Crafts</b>		
<b>茶器 埋もれ木 小竹孝(齊藤直樹)</b> Chaki Umoregi, Takashi Kotake(Naoki Saito)	〒982-0241 仙台市太白区秋保町湯元字上原54-30 54-30 Uehara,Yumoto,Akiu,Taihaku-ku,Sendai,Miyagi 982-0241		
<b>仙台平</b> <small>せんだいひら</small>	<b>Sendaihira (Silk Fabric)</b>		
<b>(資)仙台平</b> Sendaihira & Co., Ltd.	〒982-0844 仙台市太白区根岸町15-5 15-5 Negishi-machi,Taihaku-ku,Sendai,Miyagi 982-0844	Tel.022-246-3141	
<b>若柳地織</b> <small>わかやなぎじおり</small>	<b>Wakayanagi Textile Fabric</b>		
<b>千葉孝機業場 千葉孝順</b> Chibakou Workshop Wear Co., Takayori Chiba	〒989-5501 栗原市若柳字川北塚ノ越12 12 Tsukanokoshi,Kawakita,Wakayanagi,Kurihara,Miyagi 989-5501	Tel.0228-32-3087	
<b>白石和紙</b> <small>しろいしわし</small>	<b>Shiroishi Paper</b>		
<b>白石和紙 蔵富人</b> Shiroishi Washi Kurafuto	〒989-0273 白石市中町48-5 48-5 Naka-machi,Shiroishi,Miyagi 989-0273	Tel.0224-25-6054	
<b>松笠風鈴</b> <small>まつかさふうりん</small>	<b>Pine Cone-shaped Wind Bells</b>		
<b>江雲堂 江田蕙</b> Koundo,Kei Eda	〒987-0702 登米市登米町寺池金谷17-1 17-1 Teraikekanaya,Toyoma-machi,Tome,Miyagi 987-0702	Tel.0220-52-2038(登米店) 0283-25-4323(佐野店)	
<b>中新田打刃物</b> <small>なかにいだうちほもの</small>	<b>Nakaniiida Edged Tools</b>		
<b>石川刃物製作所</b> Ishikawa Cutlery Factory	〒981-4241 加美町字南町20 20 Minami-machi,Kami,Miyagi 981-4241	Tel.0229-63-3095	
<b>岩出山しの竹細工</b> <small>いわでやましのたけざいく</small>	<b>Iwadeyama Bamboo Crafts</b>		
<b>大崎市竹工芸館</b> Osaki Bamboo Craft Museum	〒989-6436 大崎市岩出山字二ノ構115 115 Ninokamae,Iwadeyama,Osaki,Miyagi 989-6436	Tel.0229-73-1850	
<b>仙台釣竿</b> <small>せんだいつりざお</small>	<b>Sendai Fishing Rods</b>		
<b>竿政竹竿製造店 田村政孝</b> Saomasa Bamboo Rods Shop, Masataka Tamura	〒984-0061 仙台市若林区南鍛冶町106-2 106-2 Minami Kaji-machi,Wakabayashi-ku,Sendai,Miyagi 984-0061	Tel.022-227-0374	
<b>仙台御筆</b> <small>せんだいおふで</small>	<b>Sendai Calligraphy Brush</b>		
<b>大友毛筆店 大友博興</b> Otomo Brush Shop,Hirooki Otomo	〒984-0057 仙台市若林区三百人町112 112 Sarbyakunin-machi,Wakabayashi-ku,Sendai,Miyagi 984-0057	Tel.022-256-5420	